

Into my Packet



後藤滋樹の

新・社会楽

後藤滋樹 (goto@ntt-20.ntt.jp)
日本電信電話株式会社
ソフトウェア研究所

第13回「新年愉快」

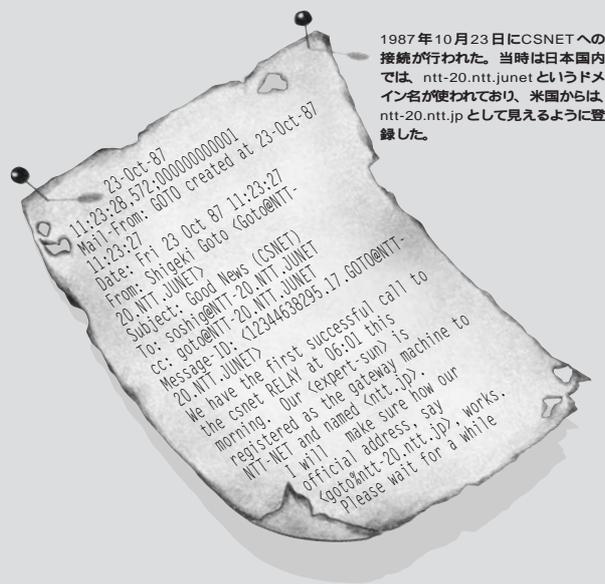
【新年のご挨拶】

街を歩いていると、年賀状のサンプルを配っているのを目にした。挨拶の文面には多種多様なものがある。あけましておめでとう、謹賀新年、賀正、迎春、といった具合。英語でA Happy New Yearというものもある。ここ数年来、私が個人的に気に入って使っているのは中国式の「祝你新年愉快」というもので、何と言っても「愉快」というのがよい。ぜひ1996年も愉快に暮らしましょう！

ところで、年賀状というのは誰が考案したものなのだろうか。年末の郵便局の臨戦態勢を見ても、この時期のハガキの物量は相当なものだろうと思う。バレンタインデーのチョコレートには明確な仕掛人があるらしいが、それに比べても年賀状は国民的な定着の度合いがすごい。

【10年前の電子クリスマスカード】

ちょうど10年前の1985年の歳末の頃、私はNTT研究所のミニコンピュータと格闘していた。仲間はそのコンピュータ (nttlab という名前) の管理者の野島久雄氏、それから新年早々に米国スタンフォード大学に行く予定の奥乃博氏であった。正確に言うと、格闘していた対象はコンピュータ自体ではなくて、その上の uucp というプログラムである。それを使って、何とか日米間で電子メールの交換を実現しようとしていたのだ。



uucp というのは unix to unix copy という意味で、cp というのは unix の符丁でコピーのことである。簡単に言うと2つのunixマシン間で電子メールやニュースを交換 (つまりファイルのコピー) するための仕組みである。それに電話回線とモデムを使う。uucp は現在ではいささか古色じみてしまったが、1985年当時はこれが最先端であった。なにしろJUNETという国内のネットワークが発足したのが1984年で、そのJUNETは当時全面的にuucpを使用していたのである。

さて、奥乃博氏はスタンフォード大学で世話になる予定の教授たちに電子メールでクリスマスカードを送った。いや正確に言うと、その数通のメールは nttlab までは研究所内のLANで無事に配達されたのだが、その先の nttlab からスタンフォード大学への uucp がまるで不調であった。だから、奥乃氏のメールは国内に留まったままで結局年を越してしまったのである。

【今となっては昔話】

JUNET と米国との接続はKDD研究所が先行して活躍していた。我々は多くの人々のアドバイスを受けていろいろな工夫を重ね、モデムも当時入手可能なものを次々に試したが、それでも事態は改善されなかった。その原因はお正月になってから判明した。スタンフォード大学の近辺の市内電話の品質が問題だったのである。これは、uucp が走行する様子をモニターすれば画面でも一目瞭然であったが、1985年の大晦日までには一体どこでノイズが乗るのか、さっぱりわからなかった。

私たちは1986年に入ってから、スタンフォード大学との間で X.25 (デジタルパケット通信) を使うことによって、上の問題は解決した。もっとも、のちにスタンフォード大学の構内電話の設備が一新されてから、現地の電話回線の品質も相当に向上している。私たちの経験は本当の昔話になってしまった。ただし、スタンフォード大学側で協力してくれた Mark Crispin 氏とは、その後も親交が続いている。彼は日本語を勉強した「成果」として宛名を漢字で書いた年賀状を送ってくれる。これは新春の愉快な話題である。

昔話を続けると、1987年にNTT研究所は米国CSNETに接続し、1988年8月にはCSNETと私たちの研究所のネットワークとの間で、TCP/IPによる接続にも成功した。この時には、村上健一郎氏がCSNETおよびCISCO社の協力を得てルーターの調整を行ったのである。ここに至るまでが私たちの「ネットワーク事始め」であった。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp